

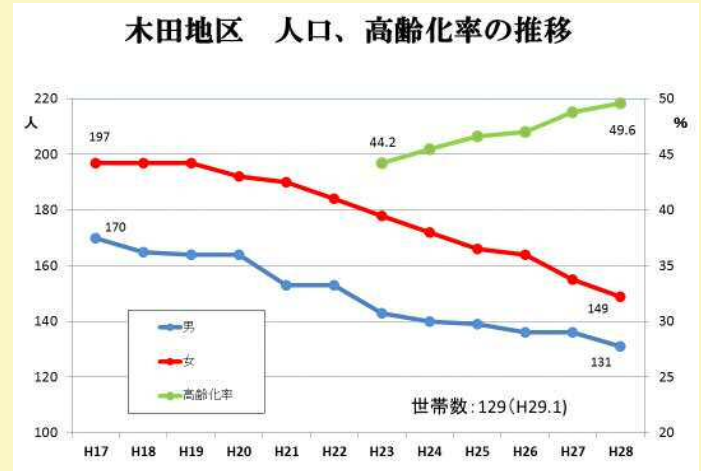
**木田地区の現状**

木田地区では、地域の人口減少や少子高齢化による農業等の産業活力が低下している。

- 人口減少と高齢化の進行と集落活力の低下
- 農業販売額の減少
- 農家数の減少の進行等

**組織**

- 平成 23～24 年度地域住民と旭自治区の協働による「地域再生事業」を展開
- 平成 25 年 7 月「地域再生事業」の検討成果をもとに地域づくりを推進する「木田地区振興協議会」を設立



**【支援開始時点の課題】**

- ① 閉校となった木田小学校を活動拠点とした地域の活性化
- ② 地域を元気にする、交流を活かしたコミュニティ・ビジネスの構築
- ③ 地域の誇りを醸成し、住民が支え合いながら豊かに暮らし、小さくても経済活動を通して持続可能な地域社会をつくっていかうとしている。

**支援内容**

- ① 事業の棚卸し
- ② 経営分析
- ③ 住民の意識づくり
- ④ 情報提供
- ⑤ 計画策定
  - 1) 運営計画
  - 2) 展示計画
- ⑥ 展示品の調査

**支援成果**

平成 28 年度まで活動していた事業運営プレイヤーがいなくなったことで、事業が停滞していた。

やる気を出す人も出てきたが、「基本的な計画がないこと」「現地で運営するプレイヤーがいないこと」から、今後の不安を感じる人も出てきた。

「ただ保存を行いたい」という思いでスタートを切り、活動を続けてきた。

研修活動や外部人材による現地訪問等によりモチベーションを高めることが出来た。

どうすれば運営出来るか、何が必要なのか、という問題意識が明らかになり、課題を共有することができた。

「どうすれば自主的な運営、自立した経営ができるか」を課題視する声生まれ、事業目的や資金作り、人材確保の必要性が理解されてきた。

**残された課題**

- 「どうやって事業運営を行っていけばいいのか」この問題は解決されていない。運営の為の基盤づくりが最大の課題。今年度策定の「暮らしの学校事業運営計画」に企画・人材・資金の必要性を記載しているのでこれに対する具体的な取り組みが不可欠である。
- 思い出の校舎を残したいという思いを具現化する為の取組み(特に人材・資金の確保)は早急な対応が求められる。
- 暮らしの学校の魅力づくりのため、木田地区と木田小学校の歴史とともに、佐々田家から寄贈された物を中心とした展示計画を今年度策定したので、今後、調査研究を進め、魅力的な展示空間を構成していく必要がある。

**【総括】**

- 現状では「どうやって事業運営を行っていけばいいのか」この問題は解決されていない。
- 運営資金は、保存に必要な最小限の経費が指定管理料で賄われている状況であり、活動資金にこと欠いている。
- 「企画・人材・資金」をどのように確保するか、運営計画に基づいて経営の基盤づくりを行っていくことが事業を進める最大の課題である。